

## 令和4年度 第2回地域包括支援センター運営協議会 議事録

1 開催日時 令和5年3月23日(木) 午後1時30分～午後2時51分

2 開催場所 北とぴあ 7階 第一研修室

3 開会あいさつ

4 議事

(1) 令和4年度高齢者あんしんセンター事業評価について

(2) 令和5年度高齢者あんしんセンター事業評価の実施について

5 その他

(1) 全高齢者実態把握調査 分析結果の報告について

6 出席者	藤原佳典会長	遠藤寛子委員	碓井亘委員
	前田 茂委員	松永みゆき委員	熊木隆夫委員
	関口久子委員	塩見幸平委員	置鮎佐和子委員
	石和信人委員	荒川正代委員	加藤博昭委員
	平野恵子委員	米村雅範委員	江口直子委員

7 質疑応答

【高齢福祉課長】 本日はお忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。定刻となりましたので、これから令和4年度第2回地域包括支援センター運営協議会を開催させていただきます。

私、事務局の高齢福祉課長でございます。どうぞよろしく願いいたします。

委員16人のうち、各委員から欠席及び遅刻の連絡をいただいておりますが、過半数の出席をいただいておりますので、本会議は有効に成立しております。よろしく願いいたします。

それでは、議事に入る前に資料の確認をさせていただきます。事前に資料1から7と参

考資料を送付させていただきましたが、お持ちいただけてますでしょうか。また、当日配布資料で、資料8のリーフレットをお配りしております。また、次第も差し替えとさせていただきますので、不足の資料がございましたら、事務局のほうにお申し付けください。

それではここから議事に入りますので、会長に進行をお願いいたします。

【会長】 それでは皆様、今日は本当に年度末のお忙しいところ、ご参集いただきましてありがとうございます。

いよいよ、来年度は第9期の介護保険事業計画の策定に向けて、スピードアップする必要があるかなと思っておりますが、その基盤となるあんしんセンターの運営ですとか、方向性に関して、今日は委員の皆様から忌憚のないご意見をいただければと思います。

それでは早速、議事に入りたいと思います。議題の(1)令和4年度高齢者あんしんセンターの事業評価について、事務局からご説明をお願いいたします。

【高齢福祉課長】 では、あんしんセンターの事業評価についてご報告申し上げます。資料1、それから資料2以降、それぞれ事業評価の結果をおつけしております。

まず、自己評価についてご説明をさせていただきます。自己評価につきましては、資料2及び資料2-1でございます。

高齢者あんしんセンターの事業評価の実施の手引きに基づきまして、高齢者あんしんセンター職員全員に自己評価項目を配付し、後日センター内で自己評価について全員で話し合い、意見交流の結果を回答としていただいております。これは職種に限らず、全員で自己評価をしていただきたいという意図に基づいてのことでございます。

回答につきましては、「できている」「ある程度できている」「ほとんどできていない」「できていない」の4段階といたしまして、「できている」が4点、「できていない」を1点として、点数化をしております。

資料2が、地域包括それぞれを集計したものです。2-1からは詳細の項目になってございます。また、ものによっては1、2、3、4の評価ではなくて、回数などを入れていただいているものもあります。

全体の結果でございますが、おおむね各項目とも「できている」「ある程度できている」との評価が多くありました。ただ、生活支援体制整備事業の地域の見守り・育成については、「ほとんどできていない」という評価をしたあんしんセンターが5か所ございました。こちらは生活支援体制整備事業についてということで、資料の2-1の3枚目の一

番下の段のところでございます。地域の見守りの担い手育成に取り組んでいるかというところで、2の評価が幾つかの高齢者あんしんセンターでございました。

また、その次のページのふれあい交流サロンの項目でございましたが、これについてもサロンの担い手の育成を行っているかについて、4か所が「ほとんどできていない」と評価をされております。

各高齢者あんしんセンター長からは、事業評価の話合いを職種による違いの理解や、各あんしんセンターの目標や課題を共有する場として、活用していることが報告されております。また、コロナ禍において様々な制約を受けながらも、サロン活動等を工夫して継続していることや、権利擁護事業の充実、業務継続のためにセンター長が中心になり、勤務態勢や役割分担の見直しを図り、情報共有を積極的に取り組んでいるあんしんセンターが多かったというふうに感じております。

自己評価については以上でございます。

**【会長】** はい、ありがとうございます。資料2を中心にご説明いただきました。包括支援センターの自己評価に関してでございますが、委員の皆様からご質問、ご意見いかがでしょうか。

じゃあ、ちょっと私のほうから1点確認でございますが、これは今回、令和4年度の自己評価の結果をお示しいただいておりますが、基本的に前年度とか前々年度と大きく順位なり、あるいは点数が変わっているセンターというのは、あんまり目立ったところというのはございませんでしたでしょうか。ちょっと、今年度のデータだけですので、いろいろコロナの影響もあったかなとは思いますが、ちょっと経年比較なんかで、何か傾向なんかあれば教えていただければと思いますけど、その辺りいかがでしょうか。

**【高齢相談係】** 高齢相談係です。このままで失礼いたします。

昨年度との変化については、基本的には大体皆さん同じような得点というか、点数づけになっているかなというふうに思います。少し、去年度より上がっているところが多いかなという印象です。大体、一桁台から10点程度上がっているところが多く、活動はコロナで止まっていたものが少し動いているのかなというところと、あとはちょっと期待も込めてなんですけれども、センターの中での連携というのが進んでいく兆しなのかなというふうに感じております。

以上です。

**【会長】** はい。これ、総合得点だけ拝見していますと、平均点が222.4点と資料2

の1ページ目にお示しいただいておりますが、一番トップのところなんかですと250点ぐらい取っていらっちゃって、少し、一番ちょっと低めのところというのは200点を切っているところなんかもあるかと思うんですね。

このたびは、例年厳しく自己評価なさっているのか、たまたまなのか、ある程度ちょっと、次回からでも結構なんですけど、経年的に近々2、3年分のデータなんかも参考にお示しいただくと、先ほど申しましたように、もともとの特徴なのか、ちょっと何かあったのかというのが分かるかなと思うんですけど、この辺り、今後資料を併記していただくという事は可能でしょうか。

**【高齢福祉課長】** 来年度から経年の変化も付け加えて、資料を作成させていただきます。昨年度を見ますと、例えばやまぶき荘さんなんかは今回189点になっておりますが、前回は201点と。いつも、割と厳しめにつけていらっしゃるかなという印象がございます。

以上です。

**【会長】** ありがとうございます。

はい、お願いいたします。

**【委員】** 資料2-1の2枚目のところなんですけども、消防署との連携、相談できる体制がとれているかでございますけども、これ、どういう相談のことを言っているのかなと。何でそう申し上げているかという、2が四つもあるんですね。それで、相談できている体制がとれているかで、2が四つもあったらまずいんじゃないかなという気がしていて、その相談内容によってはいいのかもしれないですけども、ただどういう相談なのかなと。消防署と聞いたら、なんとなく大事なような気がするもので、それで2が四つもあったらちょっと気になります。

**【会長】** はい、ありがとうございます。事務局、消防署との連携に関しまして、いかがでしょうか。

**【高齢相談係】** 高齢相談係です。

ここで言っている消防署の連携というのは、多くの場合は地域包括ケア連絡会ですとか、地域でのネットワークづくりの中で消防署の方に来ていただいたり、あと、ふれあい交流サロンという場に消防署の方に来ていただいたりということで、通常の緊急時の通報とか、安否確認とか、そういったところで消防署の方々と個別に取る連携と、その3点ほどが含まれるかなというふうに思います。

2とついているところが、例えば今申し上げたような細かな項目ごとに得点化している

わけではないので、令和3年度に消防署の方とのそういった合同の場を持つことが少なかった、あるいはできなかったという判断が入っている可能性があるかなというふうに思います。

以上です。

【会長】 どうぞ。

【委員】 ありがとうございます。そういう外の話と、緊急で連絡を取るという二つのことがあると思うんですけど、今、両方話されていて、相談する場とかそういうのはそれでいいと思うんですけど、もしウエートの、そういうあんしんセンターとの緊急連絡とかそういうことで結構重みがあるんだしたら、少なくとも2は3に改善しないとまずいんじゃないかなと。

というのは、7の警察署との連携は、これ相談できる体制となっていて、これは2がないんですね。ただ、同じ警察署と消防署。警察というのは、何かそういう、いわゆる身体に影響するようなことがあってという意味なのか、これも単なる相談の話と、そういう緊急と二つ言っているのか。そうすると、消防も警察も同じように相談と緊急の連絡と二つがあるんでしたら、同じような考え方でちゃんと指導したほうがいいんじゃないかなというふうに思います。

以上です。

【会長】 事務局、いかがでしょうか。

【高齢相談係】 はい、ありがとうございます。そうですね、そのような体制、それと連携ができるような体制づくりと、こちらの支援が必要かなというふうに思いました。ありがとうございます。

【会長】 はい、ありがとうございます。特に警察との連携というのは、いろんな多面的な、もちろん犯罪とかそういうのもありますけれども、認知症の方の保護とかそういったところなんかも入ってくるのかなと思うんですけども、いずれにしてもあんしんセンターの方々にとっては、消防機関とも連携するというのは非常に心強いパートナーですので、ぜひこういった機会が、少なくとも今、委員がおっしゃるように、できるだけ3をキープするような体制に持っていただけるといいんじゃないかなというふうに思います。ありがとうございます。

ほかの委員の皆様方、ほかにはどうでしょうか。

はい、お願いいたします。

**【委員】**

資料2-1の2枚目、下のほうの権利擁護事業についてのところで、成年後見制度活用の②ですね。区長申立の必要性の判断は適切かというところで、昭和町・堀船さんのところが1になっていまして、結構このアンケートで1をつけるのはあんまり多くないので、何か区長申立案件に具体事案で、ちょっと包括と区が連携できなかったようなものがあって、なんとなく2、3をつけるのをためらわれたのか、あと今回、この部分については昭和町・堀船さんだけが1で、あとは3、4とついているので、1か所だけなので、もしセンターのほうでこの区長申立要件の把握ができていないという自己評価であるのであれば、ちょっと直接ご案内を、例えば具体事例なんかも含めて、こんなケースでは区長申立ができるよというところのご案内をしてあげたらいいのかなと、ちょっと思いました。

**【会長】** はい、ありがとうございます。事務局、いかがでしょうか。

**【高齢相談係長】** 高齢相談係長でございます。

事務局からお答えします。成年後見につきましては各あんしんセンターと区が連携してお話をしておりまして、特に区長申立案件につきましては、区の担当者があんしんセンターのケースの方にご訪問をしたり、直接確認をして、おおむね判断をしているところでございます。

昭和町さんにつきましては、案件数が多少少なかったのかなというふうなご判断をいただきまして、委員のおっしゃるとおり、今後につきましても引き続き、成年後見の啓発の部分ですとか検証などというのは、引き続き実施してまいるところでございます。今後もしっかりとやっていきます。よろしく願いいたします。

**【会長】** ありがとうございます。ほかの委員の皆様いかがでしょうか。よろしゅうございますでしょうか。

それでは続きまして、事務局のほうからまた、ご説明をお願いいたします。

**【高齢福祉課長】** 続きまして、資料3でございます。利用者評価についてでございます。区民に対して、高齢者のセンターの評価についてアンケートを実施いたしました。

あんしんセンター利用者評価の、まず区民評価につきましては、サロンの参加者等を対象に実施しております。サロンの内容及びセンターに対する満足度は高く、「満足」「ある程度満足」との回答が共に98.7%であり、高い評価を得られております。サロンについては、コロナ禍においての開催に感謝する声や継続を望む声が多く、また「いつも楽しみ」「多種多様な企画」「体操ができてうれしい」「外出の機会があってよい」「コロ

ナ禍でもいろいろ考えてくれてありがたい」「友人、知人と出会えてうれしい」との意見から、サロンがコロナ禍における通いや憩いの場としての役割を果たしていることが見てとれます。

また、コロナ収束後は、サロンの時間延長や回数を増やすことを望む意見も多く寄せられております。

高齢者あんしんセンターについても、「お世話になっている」「親切で頼りになる」「よく連絡してくれる」「何かあったときに相談できるので安心」「新型コロナウイルス感染予防対策で安心して参加できた」など、高齢者あんしんセンターの職員の配慮や応対に対する満足度が高く、今後もさらなる充実を期待する意見が多くございました。

以上でございます。

**【会長】** はい、ありがとうございます。サロン等、参加者アンケートに関しましてでございますが、利用者の方からの声ということで、委員の皆様、ご質問、ご意見いかがでしょうか。

じゃあ、ちょっと意見が出ないので私のほうから確認でございますが、今回サロン等ということでお尋ねいただいているのは、現在サロンですとか通いの場とか居場所とか、いろいろな言葉でいろいろな活動をなさっている場合が多いかと思うんですね。この場合のサロンというのは、全部ひっくるめてのことなのか、何かちょっと特別な定義と言いますか、定義に基づいた活動の場なのか、その辺はいかがなものでしょうか。

事務局、お願いします。

**【高齢相談係】** 高齢相談係です。

このアンケートを取っていただいているのは、決まった月に開催した高齢者あんしんセンターの事業の中でアンケートを取ってもらっています。基本的にはふれあい交流サロンというものが定例で開催されているので、そこの利用者さんのアンケート結果が多いかと思えます。

以上です。

**【会長】** この、じゃあ、すみません、ふれあい交流サロンは各あんしんセンターで統一して、皆さん各センターともイメージしてやっていらっしゃるという、そういうサロン活動というような、そういう認識でよろしいですか。ありがとうございます。

委員の皆様、いかがでしょうか。これ、実際あんしんセンターからで活動されているということで、委員、もしあれでしたら何かご感想とかコメントとかあれば、いかがでしょ

うか。

【委員】 よろしく申し上げます。

こちら、包括センターが主体でやっているというような開催サロン活動の中身というか、ことなんですけど、今やっぱり包括センター、調査に行ってもものすごい業務量で、何ていうんですかね。独自の、包括センターから離れてやっているサロン活動なんていうのを、区のほうでもちょっと把握しているような数とかあれば、教えていただきたいなと思うんですけど。

【会長】 事務局のほう、いかがでしょうか。お答えできる範囲で結構です。

【委員】 これ、でも独自でやっているものとかも、結構アンケートとかは。

【会長】 はい、事務局、申し上げます。

【高齢相談係】 ご質問ありがとうございます。

ふれあい交流サロンというふうに銘打っているものが、区のほうで各高齢者あんしんセンターと地域の高齢者の方が気軽に参加できる、緩やかに見守れる場として、実施をさせていただきたいということをお願いをしているものなんです。

また、令和4年度の実績については、次回の令和5年度第一回の地域包括支援センター運営協議会の場で報告をさせていただくのですが、令和3年度に関しては、16の高齢者あんしんセンターで、全体で736回の開催をしております、これが高齢者あんしんセンター主体でやっているもので、活動場所としては団地の集会室をお借りしたりとか、町会、自治会をもっと連携したりといったような、地域の場に出ていっての活動も多くあります。

【委員】 ありがとうございます。私もなんとなく感じていると、やっぱりちょっと大きな団地のところとか、比較的サロン活動とか組織しやすいのかなというイメージがあって、やっぱりそういう傾向なのかなというので。そうすると、やっぱりサロン活動の交流、包括の支援とかも大きな団地のようなところがある包括のところ、それで発展させていって、やっぱり一軒家の多いような、そういうところのサロン活動の支援に、何て言うかちょっと重点的に力を入れて、今後コロナもだんだん明けていくというか、少しずつそういうところも力を入れてやっていくところでいけたらと思います。

【会長】 はい、ありがとうございます。ヒアリングに委員もご参加いただきましてありがとうございます。多くの委員の皆様がヒアリングにご参加いただきましたので、せっかくですのでそれぞれちょっとご感想とかサロンに限らず、全体的にご意見いただければと



思うのですが。

委員、どうでしょうか。何か。

【委員】 じゃあ、ちょっとサロンのことでお話させてもらおうと、委員から言われましたように、ハコモノがあるところというのは多分いろいろ集めやすかったり、最初に言われたように、すごい数の変化がありますよね。たくさんやってらっしゃるところは、多分、住宅が多いところかなと思います。それで、自分のところの地域で言いますと、やっぱり平場のところというのはなかなか、まず場所をどうするのかとかいろんなことがあるんですけど、他包括さんのいろいろな事例を見て、特にコロナになって建物の中よりも外だったら活動しやすいんじゃないかということで、私どもも毎週公園を使って青空サロンというのをやっているんですね。そしたら比較的、今日はお天気が悪かったんですけど大体天気いいので、大勢みえるんですけども、場所の工夫というところは、かなりこちらの課題になっているなど。

URさんは今、多分ほかのところ、地域も同じだと思うんですけど、URさんも包括さんと共同でいろいろやりたいなというところを教えてくださいるので、その場所を借りて、URの住人さんだけでなく近所の方もいいですよと言われて、そこもまた今、増えてきています。ただ、まだまだ平場のところで平地のところではやれてないところ、それをどう開拓してくのかなというところは、私どもの赤北包括の課題だというふうに思っております。ありがとうございました。

【会長】 はい、ありがとうございます。

何か事務局のほうからは、今の平場ですとかそういったところでの、場所のほうで何かご意見とかお伺いあればと思いますが、いかがでしょうか。

【高齢相談係】 ありがとうございます。場は本当に課題が常にある感じでした、このコロナの間は閉鎖された空間での集まりというものに非常に制限があったので、各包括で工夫して15分だけ体操で広場に集まろうというような働きかけとか、あと平場のエリアでも町会さんとかに働きかけながら、そういう、ちょっと集まって体操する場づくり、働きかけをしているところも結構あるかなというふうに思います。

コロナがまた明けた後の活動も、来年度は何らか考えていく必要があるのかなというふうには感じております。

【会長】 はい、ありがとうございます。それでは委員もほかのヒアリングにご参加いただいたかと思うのですが。皆様、ひと言ずついただきますので、ちょっとご用意いただけ

ればと思います。

委員、お願いいたします。

【委員】 私は滝野川西あんしんセンターでヒアリングに参加したんですけれども、サロンに関して言えば、やはりまだなかなかコロナ禍の影響で開けてないということなんですけど、やはりコロナの影響で、やっぱり皆さん体力が低下しているので、運動機能の改善とかそちらのほうに今、重点的にとか力を入れてやられているということでした。

私の伺ったところは、自治会とあんしんセンターの連携がとても密で、自治会が9町会ぐらいあって、そこで情報共有をされているということがすごくいいなと思ったのと、あと各自治会でサロンのような小さい集まりをやられているということで、それも包括支援センターでも、いつ、何を、どこでやっているかというのを全部把握されていて、すごく連携が密になっていていいなと思いました。

【会長】 はい、ありがとうございます。

それでは、委員、いかがでしょうか。

【委員】 私は豊島のあんしんセンターに伺わせていただきました。私のところ、先ほどから話題に度々出ております昭和町・堀船というところが民生委員のところでは自分のところの担当でございます。全く、豊島のほうと環境的に違うような雰囲気でしたが、やはり大きい団地が豊島の場合あります、五丁目団地。あちらについては、随分いろんなことをなさっているような印象を受けました。うちのほうの、この昭和町、私は堀船なんですけれども、町会と民生委員そろったシニアクラブなどで、こういう月に1回、2回、サロンというのではありませんが、町会のほうも見守り活動でしょうか。ああいうのとかも随分活発にやっております。高齢者あんしんセンターの方にもお願いしまして、お医者様とか、例えば歯医者さんとか内科の先生とか、また歯科衛生士さんとか、年に1度とかバラエティーにとんで王子神社を参拝に行きましょうとか、いろんなサロンと同じようなことはやっております。ただ、平場が多いものですから、誰かが誘いに行つて、じゃあ一緒に行きましょうとかというような感じじゃないと、週に2回ここをやりますから行つてくださいよというんだと、なかなかちょっと難しい地域のように思います。

それで町会といたしましては、そういうことをいろんな民生委員なり、シニアクラブなり、いろんなところとも連携しながらやっております。

豊島のほうのそういうサロンで、盆踊りやったりとかいろんなことありますけれども、とてもいいことだと思うんですけれども、なかなか同じようなことが難しいのかなと思っ

ております。そんな感じでした。ありがとうございます。

【会長】 はい、ありがとうございます。本当に地域性といいますか、地域によって様々な条件が違うかと思いますが、ありがとうございます。

それでは委員、お願いできますでしょうか。

【委員】 私は民生委員やっております、自分の町会に関しましては、先ほどのお話しとちょっと重複するかもしれないんですけども、月に1回独自に北町会としてのご高齢の方とかのお話のサロンみたいな形のをずっと持っていたのですが、このコロナ禍の間でどうしても高齢者の方は感染が怖いので、ちょっとずっと中止させていただいていたんですが、このたびいろいろ交通法規が変わりまして、自転車などまだ乗っている方がいらっしゃればヘルメットかぶりましょうだとか、それからゴミがあれするからと町会の方に声をかけて、サロンというわけではないんですが、だんだん人を集めて集会場を利用してやるように努力はしてきているんですが、その中で会長とご一緒に赤羽のあんしんセンターにお伺いしていただいたんですけども、全然地域といいますか、全然ロケーションがまるで違うので、相当理解するのに苦しんだんですけども、アンケートを作りながらも、これどういうふうに理解するんだろうなというところが。繁華街とそれからマンションと普通のおうちとすごい混在しているんですね。だから、やっている方が大変だろうなと。この間、当日いろんなディスカッションもさせていただいたんですけども、かなりやっぱり皆さん努力していらっしゃるなというのは見受けられましたね。サロンも、周りの近所の方を巻き込んで、巻き込んでという言い方もあれですけど、協力していただく方がたくさんいらっしゃって、声をかけるそういう方とか本当いらしたんで、私も見習わなきゃいけないなって、反省しながら帰ってきた感じでした。

【会長】 はい、ありがとうございます。本当に、北区の中でも全然地域性が違うと、やはり区民の方でもちょっと土地勘がないとイメージが湧きにくい部分があるんじゃないかというようなご意見も多々いただいたところでございます。ありがとうございました。

それでは、もう一回になりますが委員、今回あんしんセンターの評価の視点では何かご意見いただけますでしょうか。よろしく申し上げます。

【委員】 サロンの件なんですけど、非常に積極的に取り組んでいまして、すばらしいなと思いました。特に、フレイル予防を考えると広がりが必要なので、自分のところだけがやっていたら限界を感じるということで、サロンを住民への自主的引継ぎ。それに一生懸命やっておられて、うまく引継ぎできたものもあるということなんですね。今後、すごく

期待していると、そんな状況です。

【会長】 はい、ありがとうございます。

それでは、委員もあんしんセンターのヒアリングに行っていたと思うんですけど、いかがでしょうか。

【委員】 はい、浮間の高齢者あんしんセンターを訪問させていただきました。サロンに対しては、浮間でちょっと特徴的だったなと思ったのは、マージャンとかけん玉サロン、男性が参加しやすいものを意識的に開催されていて。特にけん玉については女性も含めて、参加された方がおうちでも練習するためにマイけん玉を購入されて、家でもできる趣味で集まって、皆さんともできるというところで、なかなかいい試みかなと思いました。

【会長】 はい、ありがとうございます。

委員、何か特に全体を通してコメントなりアドバイスみたいなものはありますでしょうか。

【委員】 はい、私はヒアリングのほうは滝野川はくちょう高齢者あんしんセンターさんに行かせていただいて、とても何て言うんでしょうね、きちんと整備されていて、課題についても見えやすい形で整理されていることに興味いたしました。

全体を通して皆様の話を伺ってですけれども、サロン活動にしても、このコロナ禍においてそれぞれの施設でいろんな工夫をしていただいて、またサロンだけではなくて町内会においても、幾重にも高齢者の方をつなぐ仕組みづくりを、コロナ禍においてもいろいろ試行錯誤しながら取り組んでいただいて、本当に頭の下がる思いなのですが、このちょっと先が、このコロナ禍についても明けてくるかなというところにおいて、今度はサロンに來れなくなってしまっている人。このアンケート結果を見ると、アンケート答えていただいている方というのは辛うじてコロナ禍においても來れている人ですけれども、來れなくなってしまっている人がいるのではなからうか。また、その人たちに、また復活、來てもらうための仕組み、もしくは落ちてしまった人もいると思うので、そういう人のフォロー、その辺をどう考えていくか。それまでは訪問自体が憚られる状況もあったかと思うので、そこの再構築というか、新たに充実させていくに向けての取組が必要になることかと思えますので、その辺みんな考えていけたらいいのかなと思っております。以上でございます。

【会長】 ありがとうございます。非常に、來れない人への配慮といたしますか、対応がどうなるかと。なかなか積極的な周知が無理にしても、その方が何かちょっとそれなりに生

活なさっているかどうかの把握といいますか、そういったところになるのかなと思います。ありがとうございます。

ごめんなさい、あれですね、あんしんセンターの視察にさらにご参加いただきました委員で、浮間のほうご参加いただいたということで、ご感想、コメントいただければと思います。

【委員】 はい、よろしく願いいたします。

私も浮間を見学させていただきました。やはり介護業界全般に言えるんですけども、やっぱり人が足りないということで、皆さん限られたマンパワーの中で、すごい一生懸命頑張っているなということで、その辺はすごい頭が下がる思いでした。

あと、サロンについて、できる限りいろんな工夫をして、コロナ禍において一生懸命やっているなということで、本当に現場は限られたマンパワーの中で一生懸命やっているなということで、逆にけちをつけるのが申し訳ないくらい一生懸命やられているので、非常に頑張っているなという印象を持ちました。

以上です。

【会長】 はい、ありがとうございます。

委員は新町光陽苑を視察いただいたということで、ご感想なりコメントなりいただければと思います。いかがでしょうか。

【委員】 初めて参加させていただきました、まず何をどうやっていいかというのが一番問題だったんですけども、皆さんものすごい、やっぱり真剣に物事に向き合って、そして行動を起こしていらっしゃるというのは痛切に感じました。

それで実は私のほうで実態をもう少し知りたいなということで、家族介護者教室に実際に参加させていただきました、その進行状況、それからこの教室の内容。実に参考になりまして、これをやっぱりやっていくというのは大変なことなんだというのが実感として感じましたんですが、やっぱりこういうことを真剣にやってらっしゃる方には本当に頭が下がりました、というのが感想です。すみません。

【会長】 はい、ありがとうございます。心強い応援をいただいたということで、ありがとうございます。

それでは、引き続きまた今後のあんしんセンターのレベルアップにつながるよう評価していくと同時に、あと評価の指標についても、ある程度客観的で毎年きっちり分かるような指標というものも重要かなと思っておりましたので、またその辺りは継走しながら、検

証しながら、より評価の指標というものも改めていきたいというふうに考えております。

続きまして、事務局のほうから補足でご説明いただけるということで。

**【高齢福祉課長】** 利用者評価の中の医療機関からの評価と、それから居宅介護支援事業所からの評価のご説明が、すみません、抜けてしまったのでちょっと簡単に触れさせていただきます。

資料4が医療機関からの評価アンケートの結果。資料5が居宅介護支援事業所、ケアマネの事業所からの評価になってございます。こちら、それぞれ高齢者あんしんセンターが自分の高齢者あんしんセンターの関わりの多い医療機関の医師や相談員にアンケートに協力していただいたのが医療機関の評価でございます。

連携は「十分取れている」「ある程度取れている」という結果が89.7%でございました。また、あんしんセンターの職員対応についても、「よく相談に乗ってくれる」「相談対応が迅速で的確」「親切で丁寧」という意見が多く、「やや不満」「不満」の回答が1件のみでございました。全体の満足度として、「独居の高齢者への訪問や通院同行支援」「困難ケースへの対応」へのものが多数でございました。

ケアマネの評価でございますが、こちらは北区ケアマネの会やケア倶楽部を通じて依頼をし、区内居宅介護支援事業所のケアマネジャーを対象に実施して、68人の方からご回答をいただいております。その結果、連携としては「十分取れている」「ある程度取れている」が86.7%。全体の満足度としては、「満足」「ある程度満足」「やや満足」の回答が97%になっております。親切、丁寧で信頼関係ができていているという意見が多くございましたが、一方あんしんセンターへの意見等では、「相談できる人、できない人の差が大きい」「包括によって対応方法やスキルの差があると感じる」という意見もございました。

以上でございます。

**【会長】** はい、ありがとうございます。医療機関用と居宅介護支援事業所用についてご報告いただきました。委員の皆様からご質問、ご意見いかがでしょうか。

はい、委員、お願いします。

**【委員】** 居宅介護支援事業所のことなんですけれども、去年も申し上げたんですが、「満足」「ある程度満足」「やや満足」ということで、満足側に偏っていること。「やや満足」は「やや不満」にしますという具合に前回おっしゃったと思うんですけれども、「やや満足」の比率がすごく低いので、ほかに影響はないでしょうけれども、ほかと合わせる意

味でも「やや不満」にするという話があったと思うんですけども、そこは連続性の意味から「やや満足」にやっぱり継続したということでしょうか。

【会長】 事務局、いかがでしょうか。「やや満足」の選択肢の位置づけでございますが、いかがでしょうか。

【高齢相談係】 ご指摘ありがとうございます。すみません、このまとめの表に関して、やや満足という表記を変更しそびれてしまいました。

アンケート調査をした時点のアンケート用紙は、「やや不満」ということで調査をさせていただいております。申し訳ありませんでした。

そうすると、「やや満足」というものを「やや不満」という置き換えをしていただければと思います。申し訳ありません。

【会長】 はい、ありがとうございます。よろしいでしょうか。

じゃあ、委員、お願いします。

【委員】 ケアマネジャーさんからの意見の中に、「包括によって対応方法やスキルの差があると感じている」というようなご意見がありますので、ここは本当に包括で働く者としてしっかり受け止めなきゃいけないと思っております。

現在16か所の包括があるということと、ケアマネジャーさんはいろんな包括さんと連携しながらお仕事をされています。たまにケアマネジャーさんから、「ここはこういうやり方なんです」と言われると、「じゃあ、違うところもあるんですか」と聞くんですね。やっぱりその辺の制度的に足並みをそろえなきゃいけないところもあると思うので、そういうケアマネジャーさんのご意見があったら、できるだけ区全体の会議、例えば今、私、主任ケアマネジャーという仕事していますが、主任ケアマネジャーだけの集まりのときに、こんな意見があったけどそれぞれはどうなさっていますかと皆さんのご意見を聞かせてもらって、そこには行政の方も入っていらっしゃるんで、どう対応するのが一番いいんでしょうかというところで、じゃあ今後はこうしましょうみたいな話でみんなと包括に流すというやり方をできるだけやっていきたいと思っているんですけど、今後もそのようにしているケアマネジャーさんの意見を、やっぱりケアマネジャーさんは言いにくそうに、「いやいや、いいんです」と言われるけど、「いいんですじゃなくて、全体を共有化するためにもご意見を言ってください」と、できるだけ吸い上げながら私たちの中で検討していきたいと思えます。

【会長】 ありがとうございます。

じゃあ、それは今後引き続き委員はじめ、皆さんで進めていけそうな感じでよろしいでしょうか。はい、ありがとうございます。

医療機関との連携の点について、何かコメントなりご感想いただければと思います。

【委員】 ありがとうございます。

医療機関、私も町医者やっていると、地域包括支援センターの協力はなしには医療できないというのは現状でございますので、二人三脚と言ったら本当に失礼な話で、いつもおんぶにだっこでお世話になっております。本当にありがとうございます。

ちょっと気になるのが、お仕事いろんなことをお願いすることが多いんですけども、働き方というか、職員の方の産業医的な立場でちょっとものを言わせていただくんですが、かなり仕事量が煩雑、それから複雑。しかも多くなっています、何でも引き受けていただけるんですけども、処理時間がやっぱりちょっと足りないんですね。できれば、本当はここに人員をバックアップしていただいて、できれば今の2倍ぐらいにする。本当はそういうふうにやっていただくほうが、これから20年後を考えたときに、北区とか東京都がこれからも住みやすい社会をつくっていくこともあれば、保育ももちろんそうなんです、教育と保育とこういうサポートしていただく方々を、ぜひ、人員を増やしていただきたいと思っておる次第でございます。

【会長】 はい、ありがとうございます。非常に現場からにとっては、心強いご意見いただいたと思うんですが、事務局のほうで何か、もちろん即答は難しいと思うんですけど、何か考え方なり何かございましたらいかがでしょうか。

【高齢福祉課長】 医療機関の先生方には、本当いつもお世話になっていて、ありがとうございます。やはり様々なケース、困難ケースが増えているのは事実でございます、あんしんセンターの職員のスキルアップはもちろんですけれども、なかなか皆さん忙しくなっているところは区のほうも認識しておりまして、それに対してどう対応していくかというところは、今、頭を悩ませているところでございまして、どういう体制を取っていくのが一番ベストかということを考えて参りたいというふうに考えているところです。ありがとうございます。

【会長】 はい、ありがとうございます。

恐らく、今後また保健事業と介護予防の一体的な実施なんかも進んでいくにつれて、より医療機関さんとの連携というのを考える必要があるかなと思いますので、ぜひまたこれはご検討いただければと思います。



ほかは、よろしゅうございますでしょうか。

では、委員、お願いします。

【委員】 すみません。ちょっと見落としちゃったんですけど、資料3-1の話もいいんですよね。

【会長】 どうぞ、はい。

【委員】 よろしいですか。

資料3-1で、あんしんセンターについての意見というところで、一番下のところの意見のところなんですけども、あんしんセンターの活動、役割が分からないというのがありまして、実は昨年度もあんしんセンターの仕事内容が分からないというのがあつて、あまり改善されているように見えないんですね。この意見というのは、特定のあんしんセンターなのか、共通的なものなのかを教えてくださいということです。もし、共通的なものだったら、もうちょっと意見を申し上げたいので、まずそこをお聞かせください。

【会長】 事務局、いかがでしょうか。

【高齢相談係長】 高齢相談係長です。

実際に細かいアンケート見せていただきますと、少数でありますけども、複数箇所というふうなことで確認してございますが。

【会長】 じゃあ、委員どうぞ。

【委員】 それでは、一部共通的なものという解釈の下でちょっとお話しさせていただきます。というのは、あんしんセンターは何をやる場所なのかというのは、すごく重要だと思うんですね。

それで北区ニュースには、講座とか催物としてのあんしんセンターという名前がよく出てくるんですけど、あんしんセンター、何が良い、どういうものかというのは、実はホームページ見ないと出てないんですね。実際にあんしんセンターを利用する人がホームページ見るかという見ないと思うんで、北区のホームページには、高齢者あんしんセンターは、高齢の皆さんを支えるために設けられました。何でもご相談くださいというようなことが書いてあるんですよ。そうすると、そういうのが北区のニュースに載せる必要があるんじゃないかなと思っていて、例えば高齢者のページがあると思うんですけど、そこに毎回、「高齢者あんしんセンターは高齢の皆さんを支えるために設けられました。何でもご相談ください」とか、「介護、健康、福祉、医療生活、講座、サロン、困り事、そんなものをご相談ください」というふうに書いておいたら、何をするとかというのが分かる

んじゃないかなと思うんです。

やはり、私もこの委員になったから分かるのであって、そもそもどういうところなのというのが分からない人がいっぱいいると思うんですよね。催物をしているだけだと思う感じが、そういう講座とかサロン会をしたり。そうじゃなくて、困っているときにはぜひぜひ相談してくださいというのがもうちょっと分かるほうがいいんじゃないかなという意味で、ちょっと気になりましたということです。以上です。

【会長】 はい、ありがとうございます。恐らくこれは、多くのあんしんセンターにも共通することかなとは思いますが、個々のあんしんセンターそれぞれ地道に啓発活動なさっていると思うんですが、また区として、全体で何かPRの方向性ですとか広報の方向性なんかで、何かお考えなりございますか。

じゃあ、高齢福祉課長お願いします。

【高齢福祉課長】 今、年に1度、特集ページを紙面もらいまして、あんしんセンターの宣伝をしているところです。大体10月、11月ぐらい、介護の日を絡めて載せさせていただいておりますが、その回数が増やすことができるかどうかとか、これはちょっと紙面の関係もございますけれども、皆さんにあんしんセンターに来ていただくということがとっても大事だと思っておりますので、検討させていただきたいと思っております。ありがとうございます。

【会長】 はい、どうぞ。

【委員】 今、お話聞いて安心したんですけど、北区のニュースのページに、ここにもアンケートの分析とかありますけど、「長生きするなら北区が一番」と必ずタイトルに入っていると思うんですけど、そここのところに四角がありますね。「高齢者の皆さんを支えるために設けられました。何でもご相談ください」とか、そういう標語みたいなものは北区のほうでよく考えてもらって、この下に入る十数文字ぐらいですかね。それをちょっと入れておくだけでも、随分違うじゃないかと思うんです。ぜひ、そういうのも検討してほしいなど。

もちろん特集ページというのは、特集するページは非常に大事だと思うんですけども、もっとあんしんセンターを身近にしてもらうためには、そういうものが目にすっと入るといようにしたらどうかというふう意味で申し上げました。

【会長】 はい、ありがとうございます。本当にこの広報活動。これは高齢福祉の分野だけではなくて、いろんな最近行政のほうのお立場でも、やっぱりどうすればインパクトの

ある広告といいますかね、広報になるかとか、やはりデザインというものもかなり重視されている地域もあるようですので、なかなかその辺、専門職の方とかだけではちょっと難しい部分はあるかと思imasので、恐らく広報戦略というのは区全体でいろいろ使える部分があるかと思imasので、またご検討いただければと思imas。ありがとうございました。

それでは、時間がある程度進んでまいりましたので、次の議題にいきたいと思imas。

まず、(2)の令和5年度高齢者あんしんセンター事業評価の実施について、ご説明をお願いいたします。

**【高齢福祉課長】** 資料7をご覧ください。令和5年度高齢者あんしんセンターの事業評価の実施でございます。こちらは4年度と同じように事業評価を実施してまいりたいという内容でございます。

基本的な内容は、今年度と同じでございます。来年度も事業評価を実施させていただきます。

ヒアリングの箇所数でございますが、現在のところ、桐ヶ丘やまぶき荘、西が丘園、十条、東十条・神谷、昭和町・堀船、新町光陽苑を考えてございます。

裏面に行ってくださいまして、今後のスケジュールでございます。5月から6月にかけて自己評価を実施し、7月から9月でサロンなどで利用者評価を実施いたします。また10月、11月に、皆様にご協力いただいてヒアリング調査を実施できればというふうに考えております。

以上でございます。

**【会長】** はい、ありがとうございます。令和5年度もあんしんセンターの事業評価をするということで、またヒアリングには委員の先生方、皆さん方もご協力いただきたいということでございます。

これ、限られた時間の、いつもヒアリングでございますが、もし例えば委員の皆様から、こういった評価もしても重要なんではないかとか、これはちょっとなかなか制限時間内には難しいんじゃないかといったような、何かもし、方向性なりお考えがあればお聞かせいただいてもよろしいかなと思imasが、いかがでしょうか。

委員、特にどうでしょうか。ヒアリング自体の項目ですとか、方向性とかに関してですが。

**【委員】** 2年連続ヒアリングに行かせてもらって、実際に包括同士の話し合いはしますけ

ども、具体的な仕事の中身がお互いに見えてないところがあるんですけど、たまたまここで委員をしているから、ほかの包括さんがこんな流れでやっているのかというのが分かったので、何か違う、この直接ヒアリングの内容ではないんですけども、通常そういった情報の交換ができればいいのかなと。

滝野川圏域さんのほうはセンター長会、定期的になさって、多分その辺の情報交換とかもなさっていると思うんですけども、私的には本当に参考にさせてもらっています。ありがとうございます。

【会長】 はい、ありがとうございます。なかなか改めて、こういったヒアリングみたいな機会がないとメンバーの方同士も忙しい日常ですので、全体の他のご自分の担当以外のことまで目にする機会がないかもしれませんけれども、そういった意味ではいい機会なのではないかというご意見をいただきました。

ほかは。はい、委員、お願いいたします。

【委員】 私、滝野川西包括センターに行かせていただいたんですけど、9自治会、滝野川はものすごく若い方が活動されていて、町会間でZOOM会議なんかもできているというようなところで、すごくびっくりしたんですけど、そういう、やっぱりこういう地域課題は、本当に地域ごとに一般化できない課題がたくさんあるので、町会の評価ということじゃないんですけど、ここはもう町会がかなり自立して、独居の方も戸別訪問なんかもされているということでお聞きしましたので、そういうところは町会がかなり、何て言うんですか、出来上がって、そこはそこでもう任せておける。そこにある包括センターはちょっと余力があるので、横のつながりの支援に、ちょっと手伝いに行っていたとか、何かそういうことを評価してもいいのかなというふうに、ちょっと思いました。

【会長】 ネットワークをどんどんつくっていただける、そういう能力といいますか、力ということになるんでしょうね。

【委員】 地域によっては本当に、とにかくそういうところから関わっていかなくちゃいけない、町会活動の活性化から関わっていかなくちゃいけないところもあるし、本当にかなり自主的な活動で、任せてもいいようなところもあったりという。いろいろな力の差というか、地域もあったりするので、そういうところをちょっと整理してもいいのかなというふうに思いました。

【会長】 はい、ありがとうございます。

本当に、地域をいかに見立てて、今、委員もおっしゃいましたけど、全部一から地域の

団体さんとか資源を自分でゼロから育てるといのはなかなか難しいですので、それぞれもう既存で活動されている団体さんと、いかに有機的にといいますか効率よくつながって、その方と担当の生活支援コーディネーターなりあんしんセンターの職員の方がつながっていけば、先々にいらっしゃる住民さんとも自動的につながれるような、そういう何て言うか、いわゆるネットワークをつくっていかないと、多分ゼロから立ち上げて運営してということではもう無理だと思いますので、そういうネットワークをつくる能力といいますか、そういうどちらに關してもいかに評価をしていくかというような、そういう視点が重要かなど、こういうご意見かなと思いました。ありがとうございます。

委員、何か全体を通しましてよろしゅうございましょうか。来年度のヒアリングですとか事業評価の方向性ですが。

**【委員】** 今のお話を伺いながら、やっぱりネットワークはとても大事だなと改めて再認識させていただきました。特に北区でも、古い団地を建て替えたとか町の中で変わっているところがあると思うんですね。そういうところのまちづくりからネットワークができていって、熟成していく過程について、やっぱり福祉だけでは難しい部分もあるかと思うんです。例えば保健所とか保健師さんとか、一層重層的なネットワークづくりというところの視点が大事だなと、皆さんのお話を伺って再認識させていただきました。ありがとうございました。

**【会長】** はい、ありがとうございます。次の一つの課題として、効率的なまた広いネットワークをつくっていけるかということになるのではないかなと思います。ありがとうございました。

それでは続きまして、その他の案件ということで、全国高齢者実態把握調査分析結果報告について、事務局のほうからご説明をお願いいたします。

**【高齢福祉課長】** 席上配付させていただきました、こちらのピンク色のリーフレットをご覧ください。昨年度の第2回地域包括運営協議会でお知らせしましたとおりで、高齢者実態把握調査のデータ情報に基づきまして、東京都健康長寿医療センター研究所のご協力を得て、地域課題の解決を考えていく上で必要な課題分析を実施いたしまして、地域ごとの課題を抽出したリーフレットを作成いたしました。また、この分析結果を基に、高齢者あんしんセンターごとにフォローアップ事業を展開し、町会、自治会などとも連携しながら地域課題の解決に向けた取組を開始しております。

それでは、こちらのリーフレットについて、簡単にご説明をさせていただきます。

調査内容でございます。3年の10月1日時点で北区に在住する満65歳以上で、要介護認定を受けていない方全員に対して調査を実施いたしました。70%近くの方にご協力をいただきました。この調査の分析を行い、フレイルに関する項目を中心にリーフレットを作成いたしました。

このリーフレットの見方でございますが、左下にあるように、「有意な差」とは、偶然や誤差による差ではないことを表し、地図の色が濃いほど課題があることを示しております。

こちらのリーフレットでございますが、皆様にお配りしたのは北区全域版です。これを19の地区に分けて分析いたしまして、地区ごとの分析結果のリーフレットも作成しております。

リーフレットをお開きください。フレイルとは体や心の機能低下により要介護になる危険性が高まっている状態のことを言います。このフレイルの割合、男性のほうがこの割合が高く、地域によって差があるようでございます。

右側は幸福度の高い人の割合、抑うつ傾向は新型コロナの影響を受けて高めになっているようでございます。フレイル予防のポイントは、運動と栄養と社会参加でございます。

北区の幸福度、下を見ていただきますと、男性も女性もほかの自治体の調査データよりは、男性はほぼ同等、女性では少し高い傾向にあるようでございます。

もう一段階、リーフレットを開いていただきますと、一番左側は運動についてでございます。オレンジ色のところですよ。運動機能の低い人の割合を示しています。この地域でどのようなことに取り組めば向上するかを考えていきたいというふうに考えています。運動していると回答している人の七、八割はウォーキング、散歩です。筋力アップの体操も必要となってきますので、ストレッチ、体操等は1回当たり10分ぐらいが目安となっておりますが、それに取り組んでいただける場をつくっていければというふうに考えております。

次の右側。緑色のところは栄養・口腔機能についてです。高齢になり量の減少、食べるものの偏り、お口の具合などから痩せること、筋力低下が心配されます。いろいろなものを最低4品目で、できれば7品目食べるようにしたいというふうに考えております。

右側の青いところは社会参加、交流についてです。対面、非対面の交流が週1回未満を社会的孤立状態としておりますが、男性が特に多く、またコロナの影響が多いというふうに考えております。外出は多く、閉じこもりではないが交流はないという人が多い地域も

ございます。

一番右側は通いの場についてでございます。女性の方が参加割合が高く、地域差が出ております。

リーフレットを閉じていただき、裏面をご覧ください。通いの場に参加していないができれば参加したいというふうに回答した人の割合です。北区の強みでございますが、男女とも通いの場や社会参加の割合が比較的高く、おたがいさま意識を持つ人が多いということです。一方で、男女ともフレイル対策が課題と言えそうです。

地区ごとにさらに分析したリーフレットを作成してございます。もしご興味がありましたら、あんしんセンターで担当する地区のリーフレットを希望者に配布できるようにしているところでございます。

以上でございます。

**【会長】** はい、ありがとうございます。アンケートの分析結果でございますが、ご質問、ご意見等ございましたらいただきたいと思っております。

これは非常に多くの方が回答いただいておりますので、精度の高いアンケートかなとは思いますが、あんしんセンターのお立場で、もし全体を見ていただいて何かご感想とか、なるほどなというような、何かご意見とかございませんか。

委員、いかがでしょうか。

**【委員】** 課長のほうからもお話がありましたけど、各包括ごとに分析した結果もいただいております。その中で幾つかモデル的かというと、行政のほうからも伴走支援に入っていて、具体的な取組をなさっているところもあると思っておりますけども、私どものところはこれを見て、自分の地域がどういうふうに数字で表れているのか。じゃあ、この地域のところにはこういうのが足りないから、やはりそこに力を入れて働きかけながら、やっぱりここは体操のところをやっていこうかなとか、そういういろいろ考えるところの基準の一つには使わせていただいております。

**【会長】** はい、ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

これ、いずれも何て言いますか、どんどん改善可能な項目ばかりなのかなというふうに思います。ですので、いわゆる介護予防ですとかフレイル予防、健康づくりをすることができるような項目ばかりですので、今後の改善といえますか変化も楽しみかなと思っております。今後あれでしょうか、こういった調査というのは、また何年か後に再評価の予定と

いうのはございますでしょうか。その辺の、ちょっと大まかなプランなんかがあれば教えていただけますか。いかがでしょうか、事務局。

【高齢福祉課長】 これをやる10年前に、やはり全高齢者実態把握調査をやっております、10年たって世の中も随分変わってきますし、フレイルという言葉が出てきて、介護予防とかフレイル予防に取り組みばまた改善してくる。それから社会参画が非常に大事と言われていたのは、この時代の流れかなというふうに思っております。

今後、これの分析結果を基にモデル事業を立ち上げて、いろいろ取り組んでいきたいというふうに考えておりますので、その結果どう変わっていったかということも評価していけたらというふうに思っております。いろいろモデル事業をやった地域のほうが介護度がそんなに進まなかったのかどうかとか、そういうことの分析までできればいいかなと。取組結果として、どういうふうに改善していったか、改善しなかったかというところまで評価できればいいかなというふうに思っております。

【会長】 はい、ありがとうございます。委員の皆様から、何かもしご感想でもコメントでも結構ですので、いかがでしょうか。

それでは、またこれ引き続き伴走支援といいますか、各圏域ごとにそれぞれの特徴を踏まえながら、モデル事業ができるようなところはモデル事業もやるというところで、そのモデル事業が、これあくまでもモデル事業ですので、それが必ずしもモデル事業をやったところが得というんじゃないくて、かえってモデル事業をやるとしんどかったという場合もあるかと思うんですね。ですので、ある程度のところで見極めて、良さそうなモデルなら区全体に広げていくと。また、あんまり良くないモデルだなということが分かれば、ちょっと方向転換するというようなことで、恐らくまた時々刻々といろんな動きがあるかと思しますので、節目節目で、この協議会でもご報告いただけるのではないかなというふうに思います。

それでは、このアンケートの分析結果に関しては以上でございますが、その他、何か全体を通しましてございますでしょうか。

【高齢福祉課長】 はい、事務局から。

【会長】 高齢福祉課長、お願いします。

【高齢福祉課長】 このアンケート結果を基に、今フォローアップ事業に取り組んでおりますが、5年度も地域課題の解決に向けてのフォローアップ事業を継続いたしまして、健康長寿医療センター研究所のご協力も得ながら、各高齢者あんしんセンターの伴走支援な



ども連携してまいりたいと思っております。高齢者あんしんセンターのレベルアップがとても重要だと考えておりますので、ご協力いただきながら取組を進めてまいりたいと考えておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

以上です。

【会長】 はい、ありがとうございます。

それではほかに委員の皆様から何かコメントでも、全体を通して。

はい、委員、お願いします。

【委員】 会長からもあったんですけども、このアンケート結果の集計。私も、何を苦労しているかという、実は去年のデータを全部、鉛筆で書き入れているんですよ。PDCAだから、どう変化したかというのが見るのがすごく大事なんですね。北区の職員には大変だと思うんですけど、何かせめて、去年の分も一緒に表に載せられないかなと。そうすると、すごくよく分かるんです。

例えばさっきの昭和町の後見問題にしても、昭和町、去年は4、4、4だったんですね。それが3、1、3というのに変わっているわけですよ。そうすると、4から1はすごく差がある。恐らく、申し上げようと思ったんですけどほかの方が言っていたので。

要は、ワнтаイムの前回というのと、その比較というのはすごく大事だと思っていて、そのPDCAを回すためにすごく大変な作業だと思うんですけど、何か工夫していただいて両方載せられないかなと。私、これ書き写すのにどのぐらいかかっているかな、全部で3時間ぐらいかかっているかな。全部、鉛筆で書き写しています。それでどこがおかしいかな、どこがよくなったかなと見ています。そうしないとPDCAにつながらないと思います。ぜひ、ご検討いただければと思います。

せっかくやっているんだから、もっとよくするためにはぜひそうしてほしいなど。すみません、大変なことを申し上げて申し訳ないんですけど、以上です。

【会長】 じゃあ、事務局よろしいでしょうか。できるだけ資料を、経年的に見るべきものがしっかりお示しいただくということでお願いできればと思います。

ほかは、全体を通しまして委員の皆様、いかがでしょうか。よろしゅうございますでしょうか。

それでは、また課長にマイクを戻してよろしいですか。

【高齢福祉課長】 はい。

【会長】 それでは、今日、本日いろいろご意見いただきまして、全体を通しまして課題

としましては、やはりこの事業ですので今、委員もおっしゃいましたように、しっかり事業評価を経年的に見ていこうじゃないかというようなご意見も。

もう一つ、やはりどの委員の皆様もあんしんセンターは本当に精いっぱいお仕事をされて活躍されているということはもう認識しておりますので、法律的というとあれですけども、やっぱりこれから、特に地域づくりとかネットワークづくりというところで、何度も申しますが、ゼロから立ち上げたりというのではなくて、これだけ北区自体に様々な資源といいますか、団体さんとかがあるわけですね。例えば、国のほうも今までは本当に、住民、ボランティアさんとか、あるいは地域の町会・自治会さんといったような、いわゆる住民の方主体の地域づくりということに、第一段階としてはそれを啓発していたところなんですけど、やっぱりそれだけですと、やっぱ長く継続するとか、どこまで責任持ってやっていただけるのかというところなんか難しい部分が出てきているかと思います。そういう意味では、最近国のほうも、いかに地域の、例えばお店屋さんとか民間企業さんとかで、やはり高齢者が非常に使っていらっしゃるようなお店屋さんですとか、あるいはそういったスペースというのもあるわけですので、そういったところが、よくあるのはスーパーマーケットとかショッピングモールとかですね。そういったところと連携しながら、場所を借りたりして一緒にキャンペーンをしたりとか、あるいは何かそういうデスクを設けて、中にはあんしんセンター的な、公的なところの出張所的なデスクを設けたりしているようなところもあるというふうに聞いているんですね。

ですので、それによってまた逆に民間企業さんのほうも住民さんが足しげく通っていたような場とかいうこともよく聞いておりますので、そういった地域の資源をできるだけフル活用しながらやっていくということも、これから重要なのではないかなと。そういう、できるだけパートナーをたくさん、各あんしんセンターの職員の方がお持ちになれば、ゼロからじゃなくて、そのパートナーの方に、キーパーソンの方につながっておれば、住民の方々へのサービスですとか情報なんかも集めることもできますし、提供することもできるんじゃないかということで、これからやっぱり多様な資源をいかに活用すべきかということが第9期、あるいは第10期に向けて重要になるんじゃないかなという、そういうことを感じた次第でございます。

そういうことで、取りあえず今日の意見交換というのは忌憚ないご意見いただきまして、ありがとうございました。今年度も、あんしんセンターの評価について検討を行いました結果、これをまたしっかり取り入れて、次の第9期へとつないでいきたいというふうに考

えております。

それでは最後に閉会のご挨拶と申しますか、ご感想なりメッセージをいただければと思いますが、いかがでしょうか。

**【委員】** 閉会というか、今年度もそれぞれのご担当の業務にご尽力、ご協力いただきましてありがとうございます。コロナもようやく終わりが見えてきたところで、これからが地域の力の見せどころというか、発揮することなのかなと考えております。

今後とも、どうぞよろしく願いいたします。

**【会長】** はい、ありがとうございました。

それでは、これをもちまして閉会とさせていただきますと思います。どうもありがとうございました。